

# 書評

## 保存から術後まで 脊椎疾患のリハビリテーション [Web動画付]

星野 雅洋 (監修)  
古谷 英孝 (編)

B5判・388頁  
定価：6,820円 (本体6,200円+税10%)  
医学書院刊、2024年



## 脊椎疾患リハの確実な結果と成果を出すための羅針盤

[評者] 相澤純也 順天堂大学大学院

リハビリテーション専門職・理学療法士、そして研究・教育者として心から尊敬している古谷英孝先生が編集した書籍が星野雅洋先生監修のもと発刊された。白と青を基調としたシンプルで洗練された光沢感のあるジャケットに「脊椎疾患のリハビリテーション」というタイトルが目飛び込んでくる。ジャケットをめくると6名の執筆者リスト、脊椎疾患のリハビリテーション医療、理学療法を専門とする名の知れた臨床家ばかり。特筆すべきは全員が脊椎疾患の臨床・実践研究に携わっている点であり、このリストを見ただけで本書が単に“ほかから持ってきた情報”を整理したありふれた書籍ではなく、「脊椎疾患のリハビリテーションにおいて結果・成果を出すには具体的にどうするのか?」という読者の問いに答えてくれるものだろうと期待が膨らむ。続いて、星野先生、古谷先生による監修・編集の序があり、本書がこれまでの書籍と一線を画していることが確信で

きた。次に、新書の充実度をはかるために索引にジャンプし、収載されている用語の数々を見て、内容の網羅性、エビデンス、最新知見を実感した。

「第1章 脊椎の機能解剖」では脊椎はもちろん、関連の深い胸郭や骨盤帯の機能解剖学や運動学に関する知識がきれいなカラー図とともに集約され、続く第2章での理解をより深めるための土台を過不足なく提供している。まずはこの章をじっくり読むだけでも普段の臨床推論の内省につながるであろう。

「第2章 各疾患へのリハビリテーションアプローチ」では、臨床現場で“避けては通れない”「6つの脊椎疾患」を取り上げ、リハビリテーション医療に必要な検査・測定、徒手療法、運動療法に関するスタンダードを系統的に解説している。いずれもトレンドにこびることなく、解剖学、生理学、臨床運動学、病理学、整形外科科学がベースとなっているため、5年後、10年後

も情報が古くならず長く愛読される構成となっている。特筆すべきは「結果・成果を出すには具体的にどうするのか?」という読者の問いに豊富なカラー図で答えてくれている点であり、web動画まで視聴できる徹底ぶり。ここには医学書院の方々の本書にかける気概を大いに感じとれた。最後に引用文献リストにも注目してほしい。質の高い原著論文やこれに基づくメタアナリシスなど本文や図表の根拠を明示してくれている点はビギナーだけでなく、エキスパートにとっても信用するに足る内容であることがわかる。

本書を一人でも多くの方に手に取っていただくことを切に願う。そして読者の皆様の臨床活動に役立ち、脊椎疾患をもつ患者様のリハビリテーション、さらにはその安心・安全に寄与されるのであれば幸いに思う。最後に友人である古谷先生が入魂された本書の書評を担える幸せを噛みしめながら筆を置きたい。